
第三次三輪地区地域福祉活動計画

(令和2年度～令和6年度)

支え合い、助け合い、
つながっている 福祉の町三輪

未来を担う子どもたちの
夢を育む 文教地区三輪



三輪地区住民自治協議会

第三次三輪地区地域福祉活動計画策定にあたって

平成天皇の生前退位に伴い、元号が「平成」から「令和」に変わり何か新しい時代に入ったと感じられます。

三輪地区住民自治協議会においても、一昨年創設から10年の節目を迎え、新たなステージに入ったと感じられます。この10年間を顧みますと、住民自治協議会の事業実施の指針として長野市が平成17年6月に策定した「長野市地域福祉計画」に基づき、平成24年3月に「第一次三輪地区地域福祉活動計画」を策定し、平成27年3月に「第二次三輪地区地域福祉活動計画」を策定し現在の三輪地区住民自治協議会の事業が実施されてまいりました。

特に、「第二次三輪地区地域福祉活動計画」では、「向こう三軒両隣 ひとりぼっちにならない・させない 福祉の町三輪」をスローガンに掲げて各種の事業展開を行ってまいりました。今般策定した「第三次三輪地区地域福祉活動計画」は、長野市が平成28年4月に策定した「第三次長野市地域福祉計画」との整合性を図りつつも、三輪地区の地域特性を反映させた「新たな町づくり」を主眼に策定委員会で検討してまいりました。

「第三次三輪地区地域福祉活動計画」の将来像は、「子どもから高齢者まで誰もが、支え合い、助け合い、つながりながら、いきいきと安心して暮らせる町」と致しました。

また、三輪地区の地域特性として幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校・短期大学・長野県立ろう学校、そして平成30年の長野県立大学の開学により4年制大学までの教育施設がフルに揃っていることから「文教地区三輪」をスローガンとしてより良い居住環境を整備してまいりたいと考えています。

令和元年には台風19号により千曲川が氾濫・決壊し長野市においても、多くの水害被害が発生しました。この水害により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。幸いにも三輪地区においては目立った被害はありませんでした。また、中国の武漢市から派生した新型コロナウイルスは、ついに世界に感染拡大しパンデミックを引き起こしています。一日も早く収束することを祈念致しております。

三輪地区住民自治協議会では、今回策定した「第三次三輪地区地域福祉活動計画」に基づいて今後5年間にわたり事業推進を行ってまいります。三輪地区にお住いの皆様方からの更なるご協力とご支援をお願い申し上げます。

最後に、「第三次三輪地区地域福祉活動計画」策定委員会の委員の皆様方に深く感謝申し上げます。

令和2年4月

三輪地区住民自治協議会会長

伊 倉 文 明

目 次

第三次三輪地区地域福祉活動計画策定にあたって

第1章 第三次地域福祉活動計画の策定	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置付け	1
3 本計画の期間	2
第2章 三輪地区をとりまく現状と今後の変化	2
1 三輪地区の特色	2
2 三輪地区の現状と課題	3
3 想定される今後の環境変化	6
第3章 計画の基本方向	9
1 目指すべき三輪地区の将来像	9
2 将来像を実現するための基本目標	10
3 基本目標を達成するための重点方針	12
4 計画の推進と評価・見直し	14
5 施策の体系	16
第4章 事業の展開	18
1 活動計画の内容	18
2 計画の実施イメージ	26
(参考資料)	
1 第三次三輪地区地域福祉活動計画策定委員会	28
2 第三次三輪地区地域福祉活動計画策定の経過	29
3 三輪地区住民自治協議会組織図	30
4 各区の地域福祉懇談会で出された主な意見	31
5 三輪地区の人口等の基礎データ	33
自治協の歌「つなげよう絆の輪・深めよう絆の輪」	35
雑感（あとがきにかえて）	36

第1章 第三次地域福祉活動計画の策定

1 計画策定の趣旨

長野市では、目前に迫る少子高齢社会を見据えながら、社会的孤立や住民相互のつながりの希薄化、住民ニーズの多様化などに対応するため、長野市総合計画で掲げる施策を具体化する計画として、平成17年6月に「長野市地域福祉計画」を策定しました。以降、第二次計画を経ながら、介護保険法の改正に伴う地域包括ケアシステムの構築や障害者総合支援法の改正など、大きく変わる社会福祉制度を踏まえた第三次計画を平成28年4月に策定しています。

この中で市は、住民自らが地域に根差した課題やニーズを把握し、課題解決に向けた地域福祉活動が行われるよう、市内各地区の住民自治協議会が主体となった地域福祉活動計画の策定について、指針を示しました。

これを受け、三輪地区住民自治協議会（以下、「自治協」という。）では、計画策定の基礎資料とするための住民アンケートを踏まえ、「第一次三輪地区地域福祉活動計画」を平成24年3月に、そして「第二次三輪地区地域福祉活動計画」を平成27年3月に策定し、「向こう三軒両隣 ひとりぼっちにならない・させない福祉の町三輪」を実現するため、様々な取組みを推進してきました。

この第二次計画の計画期間が令和2年3月までであること、そして地域社会をめぐる環境が予想以上に変化してきていること、さらには、自治協の発足から10年という節目を迎えたことを踏まえ、改めて第二次計画を抜本的に見直し、新たな三輪地区のまちづくりの指針となる「第三次三輪地区地域福祉活動計画」（以下、「本計画」という。）を策定することにしました。

2 計画の位置付け

前述のように地域福祉活動計画は、長野市が計画し実施する福祉サービスでは十分に対応できない地域課題について、それぞれの地区の実情に基づき個別に実施あるいは推

進んでいくための方針を示したのですが、本計画は、長野市の地域福祉施策推進の根幹と位置付ける地域福祉計画に沿いながら、三輪地区の今後のまちづくりの方向性を示す基本計画という側面も併せ持つように、策定いたしました。

従って、文化・福祉の向上と明るく住みよい地域づくりを行うことを目的とした自治協の事業計画は、本計画に即している必要がありますし、本計画が目指す将来像を実現するための具体的な施策でなければなりません。

また、本計画は、第二次計画で掲げた「向こう三軒両隣 ひとりぼっちにならない・させない福祉の町三輪」を実現するための基本方針である支え合いや助け合いといった「互助・共助」の精神も引き継ぐとともに、住民や隣組など町内会の意見やニーズに応じていくことができる計画である必要があります。

3 本計画の期間

昨今、地域社会を取り巻く環境や、それを踏まえた行政が示す福祉施策は、著しく変化しています。こうした状況に将来も対応していけるよう、本計画の期間は、令和2年度を初年度として、令和6年度を目標年度とする5ヵ年とします。

第2章 三輪地区をとりまく現状と今後の変化

1 三輪地区の特色

(1) 中心市街地にほど近く、北へ向かって緩やかな勾配がある地勢には閑静な住宅街が広がり、1万6千余（令和2年1月現在）の人々が暮らしています。

交通の面では、まず鉄路の長野電鉄長野線、道路では相ノ木通りが中央を、そして北にSBC通り、南に淀ヶ橋返目線が東西を横切っており、中央の南北を三輪幹線が貫いているなど、比較的交通の便はよいといえます。第一次計画の策定時に行ったアンケート^{*1}から、多くの人が“住みやすいまち”と捉えていることがうかがえます。

平成23年に実施した、各区の組長及び前組長へのアンケート（※1）

「三輪の町は、住みやすいところだと思うか」

	住みやすい	どちらかといえば 住みやすい	どちらかといえば 住みにくい	住みにくい	わからない	無回答	計
回答数	501	528	65	11	28	9	1,142
構成比	43.9%	46.2%	5.7%	1.0%	2.4%	0.8%	100%

- (2) 管内には、保育園3園、幼稚園1園、小学校3校、中学校2校（通学区としてカウント）、長野女子高、長野女子短大、長野県立大学、長野ろう学校という学び舎があり、教育機関が大変充実している地区です。また、多くの学生が居住していることもあり、市内有数の「文教地区」であるといえます。
- (3) 大小様々な病院があることも特色の一つです。いわゆる町医者から総合病院まで、数多くの医療機関が三輪地区にあるということは、“安心して暮らせるまち”の大きな要素の一つになるのではないのでしょうか。
- (4) 地区を縦横に走る三輪幹線と淀ヶ橋返目線、そしてSBC通りには、多くの商店や飲食店、そしてスーパーや大規模商業施設が並んでおり、三輪通り商店会と三輪中央振興会、SBC通り美松商店会を中心に、まちの賑わいを演出しています。

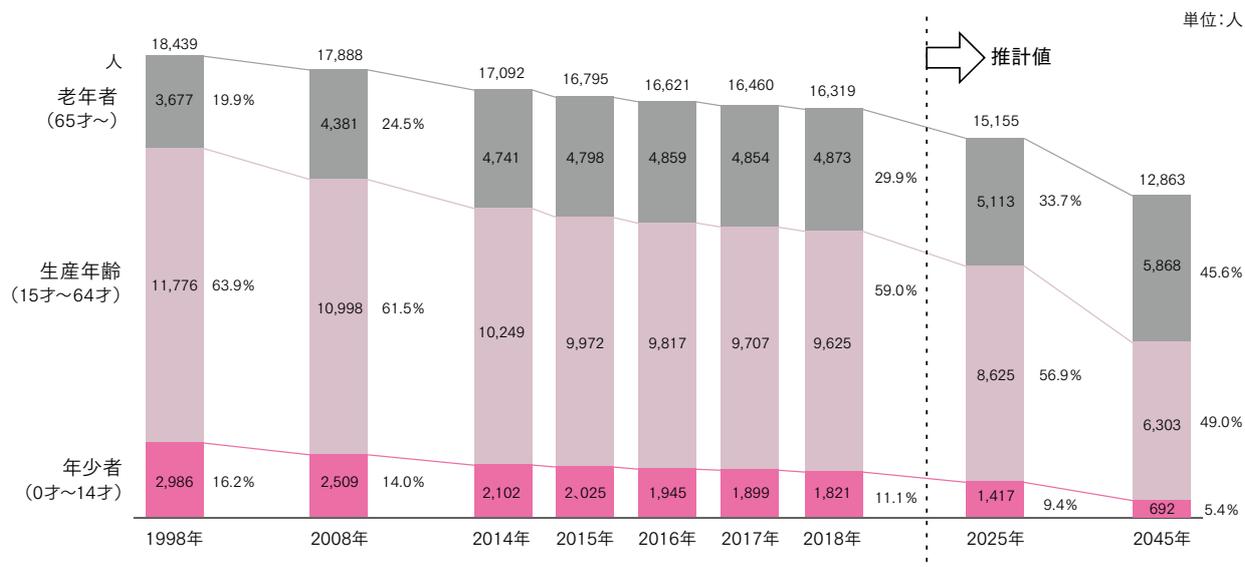
2 三輪地区の現状と課題

今、日本全体を覆う少子高齢社会や単独世帯の増加などに起因とする様々な問題は、この三輪地区においても顕著に現れています。

例えば、家族関係や地域住民相互のつながりの希薄化、独居世帯や老老世帯、生活弱者の増加などもそうですし、子育て中の母親等の孤立化や経済的負担感の増大、児童を取り巻く環境の悪化なども、社会全体の問題であると同時に、地区としてもできる限り対応していかなければならない課題となっています。

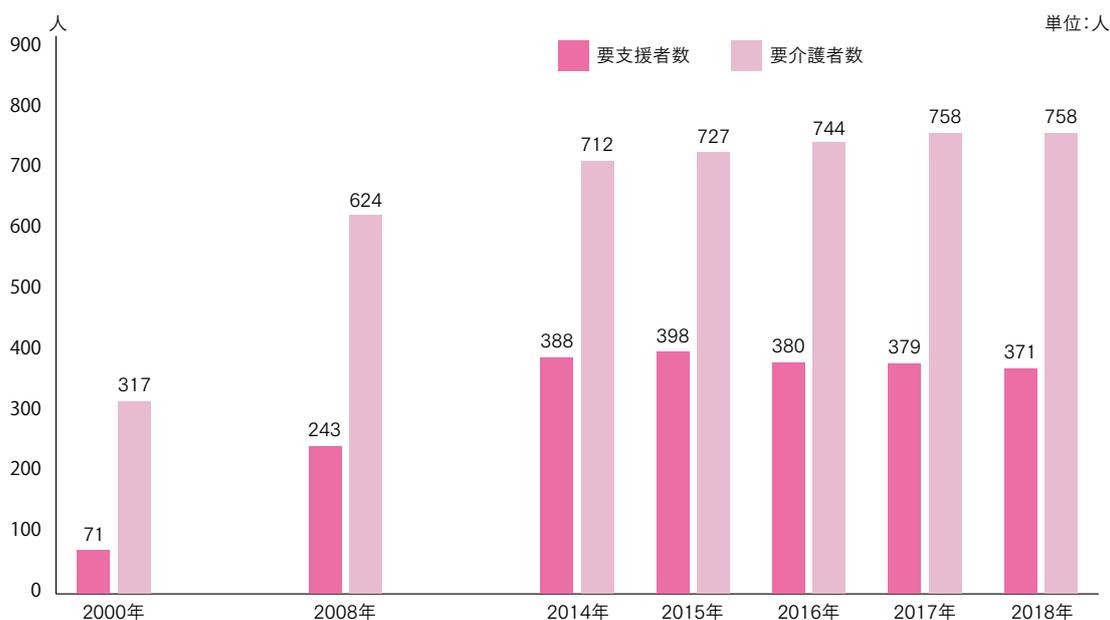
また、地区の役員のなり手不足というのも、ある意味深刻な課題と言えるでしょう。公的年金の受給開始年齢引き上げなど、社会構造や制度の変化が要因にあげられていますが、個人主義の台頭も大きな理由の一つと言えそうです。

三輪地区 年齢3区分の人口推移及び将来推計



※ 2018年までは、各年10月1日現在
 ※ 2025年及び2045年の数値は、2014年から2018年の年齢3区分の減少率あるいは増加率からそれぞれ単純推計したもの
 ※ 上記は三輪一～十丁目の人口で、他地区の世帯が含まれているほか、三輪管内には大字三輪の世帯もあるため、各区からの報告数字と合致しない。

三輪地区 要支援・要介護認定状況

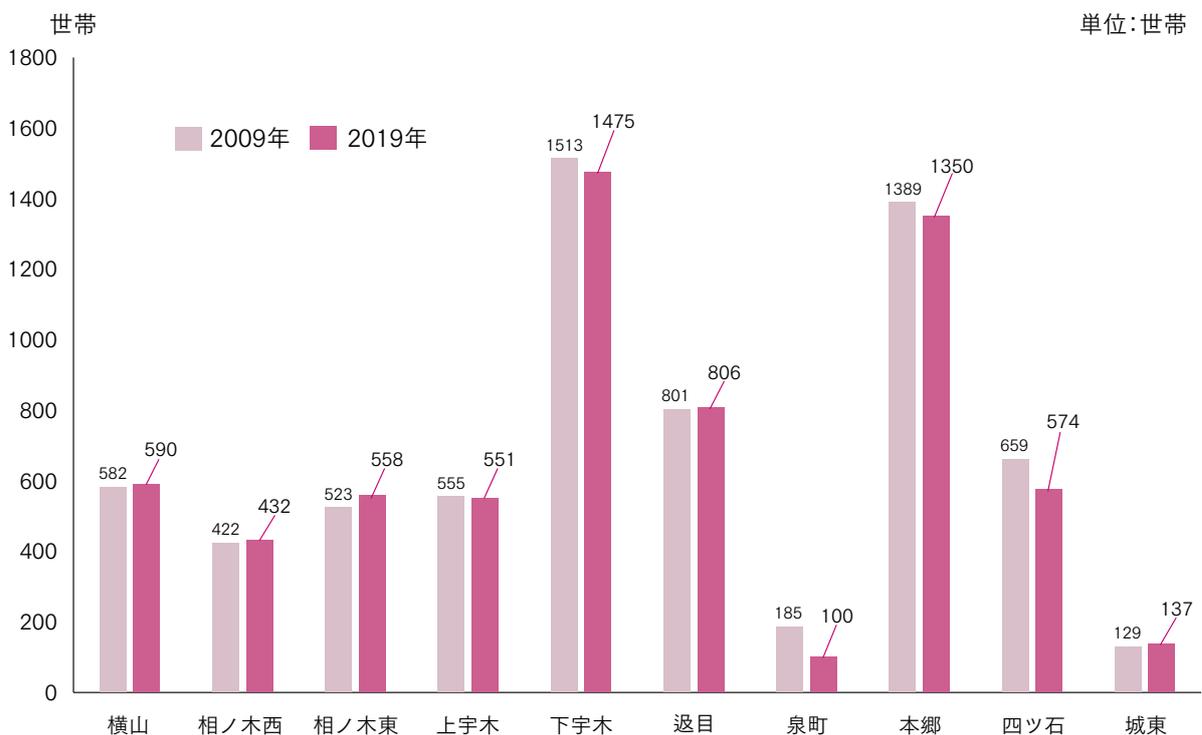


そのような状況の中、三輪地区で顕著な問題・課題というとして、空き家の増加が上げられます。空き家率^{※2}としては、長野市全体の平均 4.8%より低い 3.3%ですが、中山間地域を除いた地区の平均 2.8%よりも高く、住宅が密集していることもあって、かなり増えてきているという実感があります。

また、三輪地区は 10 の行政連絡区により構成されていますが、その規模には大小があり、世帯数で十倍以上の開きがあったり、住民のすべてあるいは大多数が集合住宅に居住しているところなど、区ごとに状況が大きく異なっています。そのため、地区としての計画や施策なども、一律にはいかないというのが現状です。

※2 空き家率 = 空き家件数 / (世帯数 + 空き家件数) …平成 28 年長野市調査

三輪 地区別世帯数の状況



3 想定される今後の環境変化

(1) 超高齢社会の到来、地域包括ケアシステム

超高齢社会の到来は目前に迫ってきていますし、少子化にはますます拍車がかかっていきます。これによる歪な人口構造はもはや避けようもないことから、これらを前提とした将来ビジョンを描いていかなければなりません。

いわゆる団塊世代が後期高齢者となる 2025 年問題や、老老介護世帯の増加、引きこもりの長期化や高齢化から引き起こされる 8050 問題、また、認知症高齢者の増加などが、社会問題として大きくクローズアップされてきており、医療、介護、予防、住まい、そしてトータルな生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」の構築が急務と言われております。

これは、地域特性に応じて県や市が作ることでとされていますが、真の地域ニーズに沿ったシステムとしていくためには、当地区にふさわしい独自のシステムをわれわれ住民が主体となって構築していかなければなりません。

(2) SNS 文化の進展

情報伝達の手段やコミュニケーションツールとしての SNS 文化にも、対応していく必要があります。情報の共有や交流などの手段として大変有効で、速やかな連絡や伝達を行えるばかりでなく、新たな結びつきの構築にも優れていることから、住民同士のつながりを広げていくことができます。さらに、地区のトピックスなどを内外に発信していくことでさらに人を呼び込むことが可能なため、子どもからお年寄りまですべての住民が暮らしやすいと感じ、活気に溢れた三輪地区を目指していく上で、今後大いに活用していきたいアイテムのひとつです。

(3) 地球温暖化など自然環境の変化

地球温暖化などによる自然環境の変化に対しても、私たち一人ひとりには真摯に取り組んでいく必要があります。子どもたちが安心して生活を営める地球、日本、そ

して三輪地区であるために、日々の暮らしであるこの足元から、地区として計画的に取り組んでいくことが重要です。

(4) 長野県立大学のフル体制化

三輪地区において想定されるのが、長野県立大学の開学に伴う環境の変化です。寮を出る2年生の多くが学校のお膝元である三輪地区に住居を求める^{※3}となると、実に数百名の学生が住むようになり、一気に学生の街としてその様相が一変することになるでしょう。

静かな住宅街から活気に満ちた若者の姿が溢れる街へと変わるにつれ、お互いに影響を与え合える良好な関係を築いていけるよう、住民の意識も変えていく必要があります。

また、寮や地区外に住む学生たちの自転車通学が多くなるため、交通安全の観点からも留意が必要になってきます。

※3 令和元年度 三輪地区管内に住居がある県立大生（2年生の一部）……………95人
他の地区に住居がある学生（1年生及び2年生の一部）………147人
（県立大学調べ）

地域福祉活動計画策定委員会 「ワークショップ」(令和元年9月17日開催) での主な意見

1 三輪地区のいいところ、自慢できるところ

- ・市街地に近く交通の便がいい
- ・閑静な住宅街である
- ・保育園から大学までそろっているなど文教地区としての佇まいがある
- ・病院なども多く、安心して住める町である
- ・コンビニやスーパーがあって、買い物に便利
- ・お茶のみサロンやはつらつクラブなど地域の皆が集える居場所がある
- ・災害が少ない

2 三輪地区の困りごとや 気になっていること(課題)

- ・少子高齢化の進行や独居世帯等の増加(ゴミ出し、除雪等に支障)
- ・隣近所のつながり(人間関係)が希薄化
- ・町内会等の役員のなり手不足
- ・地域活動に参加しない住民が増加
- ・若者の町行事への参加が少ない
- ・若者が楽しめる場所がない
- ・空き家が増えている
- ・狭い道路が多い
- ・街路樹がなく、沿道風景が殺風景
- ・行政区と学区が違う

4 こうありたいと願う 三輪地区になるためにできること

- ・ご近所のごみ出し、雪かき
- ・高齢者の買い物・送迎支援
- ・あいさつ、声かけ
- ・空き家の活用によるサロン活動等
- ・地域公民館の開放
- ・主要道路の緑化・花のあるまちづくり



3 こんな三輪地区であつたら いいなと思うところ(将来像)

- ・支え合い・助け合いが活発
- ・子どもから高齢者まで世代間交流(つながり)がある
- ・子どもが多く、活気がある
- ・若い人が行事等に参加して活発
- ・子育てがしやすい
- ・他の地区から子どもたちが移り住みたくなるほど教育環境が整っている
- ・高齢者や一人暮らしの人が安心して暮らせる

第3章 計画の基本方向

1 目指すべき三輪地区の将来像

子どもから高齢者まで誰もが、支え合い、助け合い、つながりながら、いきいきと安心して暮らせる町

前述したように、三輪地区でも少子高齢化の進展や単独世帯の増加が進み、地域住民相互のつながりが希薄化する中で、隣近所の支え合い機能の低下や独居世帯・老老世帯の増加、子育て中の母親等の孤立など様々な問題が顕在化しています。

こうした傾向は、今後さらに拍車がかかることが予想され、将来に向けての大きな不安要素となっています。

私たちは、このような諸課題に対して有効な施策を打ち出して実行することで、多くの方が抱えている将来への不安を払拭し、三輪地区が将来にわたっていきいきと元気で輝き、誰もが夢や誇りを持てるような町となるよう努めていかなければならないと考えます。

また、皆が安心して暮らしていくためには、安全な地域社会でなければなりません。犯罪のない明るい社会、災害に備えたまちづくりも重要な課題です。

そのためには、三輪地区に暮らす子どもから高齢者まで住民一人ひとりが、隣近所の付き合いや様々なコミュニケーション手段によってつながっている必要がありますし、それぞれがかけがえのない人間として支え合い、助け合っていくことが何よりも大切です。

そうすることで、誰もが自分らしくいきいきと、安心して暮らしていける町三輪、そういう町をぜひ実現したいと私たちは考えます。

2 将来像を実現するための基本目標

将来像を実現するためには、実現に向けての基本的なイメージや方向といった目標を具体的に示し、住民一人ひとりがそれを理解した上で、ともに取り組んでいってもらう必要があります。

私たちは、将来像を実現するための基本目標として、三輪地区の現状や課題、今後の環境変化などを踏まえて次の二つを掲げ、地域の課題解決に果敢に挑戦します。

【基本目標1】

支え合い、助け合い、つながっている「福祉の町三輪」

【基本目標2】

未来を担う子どもたちの夢を育む「文教地区三輪」

【基本目標1】『支え合い、助け合い、つながっている「福祉の町三輪」』

第二次計画では、高齢化の進展に伴い、高齢者が自分らしく生きがいを持ち、安心感をもって、健康で豊かな生活を送れるよう、地域においても高齢者を支えるために日頃から目配りや気配りの行き届いた隣人関係を築いておくことが大切であるとして、「向こう三軒両隣 ひとりぼっちにならない・させない福祉の町三輪」を基本目標に掲げました。

本計画の期間以降も、少子高齢化の波は止まることはないでしょうし、高齢者や児童、子育てをめぐる環境の悪化など地域環境の変化に伴う様々な問題の深刻化が懸念されています。

これらは、地域社会の大きな問題として、地域においても連携し、総力を挙げて取り組むべき課題です。

そのため、本計画においても、引き続き隣近所を中心とした日頃の目配りや気配りの行き届いた関係を大切にするとともに、SNSなどを活用した新たなコミュニケーションの広がりなども踏まえ、地域住民相互が日常的に何らかの形でつながっていけるよ

うな取組みが必要であると考えます。

お互いが信頼によって結ばれて、困ったときにはお互い様として助け合い、支え合う、そんな優しさに溢れた町こそが、私たちの求める真の「福祉の町三輪」ではないでしょうか。

こうしたことを意識し、目標に掲げて、少子高齢化等に伴う様々な課題に対し、地域住民の皆が協力し合って、解決に向かって取り組んでいける三輪地区でありたいと願っています。

【基本目標2】『未来を担う子どもたちの夢を育む「文教地区三輪」』

平成30年4月に長野県立大学が三輪地区に開学したのを契機に、教育施設がそろった地区を「文教地区三輪」として位置づけ、地域と学校の連携を軸としたまちづくりの取組みを始めました。

子どもたちは、未来を担う存在としてまさに地域の宝であり、希望です。三輪地区がその夢を育み、希望を叶えて、子どもたちがいつまでも元気に住み続けられる町であってほしいと私たちは願っています。

一方で、前述のように子どもたちを取り巻く環境や子育てに伴う環境の悪化などが社会的な問題となっているため、安心して子育てできる環境を提供していくことも、生活の場としての地域の大きな役割です。

また、若者の地域活動に対する無関心が言われる中で、若者が様々な形で地域とつながり、地域の一員として積極的に地域活動に参画してもらうことも、三輪地区を元気で活気に満ちた町にするために必要なことです。

こうしたことに真摯に取り組むことにより、子どもたちが未来に向かって夢を育むことができ、安心して子育てができ、若者が地域の一員として様々な場面に参画している、また子どもから高齢者までが世代を超えて交流しているといった町「文教地区三輪」が、文字通り現実のものとなるよう努めていきたいと思えます。

3 基本目標を達成するための重点方針

二つの基本目標を達成することにより、私たちがこうありたいと願う三輪地区の将来像を実現するには、市や関係機関等と連携・協働しながら、三輪地区の総合的なまちづくりの施策を地域一丸となって行うことが必要です。

そこで、基本目標を達成するための重点方針を、次のように設定します。

- (1) 三輪地区としての一体感を持てるまちづくり
- (2) とともに支え合い、誰もが健康で自分らしく生きがいを持っていきいきと暮らせるまちづくり
- (3) 誰もが安心して快適な環境で暮らせるまちづくり
- (4) 未来に向けての夢を育み、活力を引き出して、元気に暮らせるまちづくり
- (5) 住民の意見やニーズが反映されるまちづくり
- (6) 将来像を共有し、力を合わせて取り組むまちづくり

(1) 三輪地区としての一体感を持てるまちづくり

三輪地区の抱える課題を克服し、三輪の輝く未来を築いていくためには、何よりも地域が一体となり、住民一人ひとりが何としてもやり遂げていくといった確固とした気概を持つことが必要です。

そこで、地域住民が相互に交流し、ふれあえるような機会を様々な形で提供することなどを通じて、住民同士が同じ三輪地区に暮らす者としてのつながりを共有し、一体感・まとまりのある地域活動ができるまちづくりを進めます。

(2) ともに支え合い、誰もが健康で自分らしく生きがいを持っていきいきと暮らせるまちづくり

超高齢社会を迎え、人生 100 年時代と言われて久しい現在、ひと昔前とはライ

フステージも大きく変わってきています。誰もが皆、健康でいきいきと暮らしていけることを望んでいますが、そこには地域社会とのつながりが不可欠です。高齢者をはじめ地域住民の誰もが孤立することなく、支え合いながら、いつまでも健康で、生きがいを持っていきいきと暮らせるまちづくりを進めます。

(3) 誰もが安心して快適な環境で暮らせるまちづくり

地域で日々、不安なく豊かな気持ちで幸せを感じて暮らすためには、健康や福祉の充実に加えて、地域に安心感や快適性が確保されていることが大切です。安全な毎日が約束されているからこそ安心して暮らすことができますし、清潔できれいな街並みであれば毎日に潤いがもたらされ、豊かな日々を送ることができます。

そこで、災害に対して町ぐるみで十分な備えを持ち、犯罪を許さない明るい社会の実現に向けて不断の努力を行うとともに、生活環境の美化推進に努め、誰もが安心して快適な環境で暮らせるまちづくりを進めます。

(4) 未来に向けての夢を育み、活力を引き出して、元気に暮らせるまちづくり

地域の未来を切り拓くのは、新しい感性を持ち、無限の可能性に満ちた若い力です。

そこで、安心して子育てができ、子どもたちが希望を持って健やかに成長できる環境の整備や、若者が地域活動に参画し、子どもから高齢者までの世代を超えた交流が進むような取り組みを推進することにより、地域の活力を引き出して、誰もが自分らしく、元気に暮らせるまちづくりを進めます。

(5) 住民の意見やニーズが反映されるまちづくり

計画の推進に当たっては、何よりも住民の視点に立って、その意見やニーズをできるだけ反映させることにより、皆の理解と協力を得ていくことが重要であると考えます。

そのため、各区で開催される地域福祉懇談会や市の未来トークなどあらゆる機会を捉えて住民意見の把握に努めます。

また、住民に意見等を出していただくためには、本計画の目的や内容等のほか、自治協活動の内容や方向性等について十分に周知し、理解していただくことが必要です。

このため、広報誌である「自治協だより」やホームページ等での情報提供のほか、地域福祉懇談会などの場を利用して、広く周知を図ります。

(6) 将来像を共有し、力を合わせて取り組むまちづくり

“自分たちのまちは、自分たちでつくる”という住民自治協議会設立の原点に立ったまちづくりを推進していくためには、三輪地区のまちづくりについて意欲ある人材の確保と育成が欠かせません。

しかし現状は、自治協のみならず各区の役員等のなり手不足も慢性化し、地域活動を担う人材の確保自体が大きな課題となっています。

そこで、自治協活動や実施事業など様々な機会を捉えるとともに、常にアンテナを張り巡らしながら人材の発掘に努め、並行して若い人や普段仕事に従事している人も積極的に参加できるような工夫をしていきます。さらに、活動自体が過度の負担とならないよう、事業の見直しやスリム化などを検討し、計画推進を担う多くの意欲ある人材の確保・育成に努めます。

また、住民ニーズが多様化している現在、計画を円滑に推進し、高い成果を上げるためには、行政はもとより、関係する団体等との連携・協力も欠かせません。

すでに多くの団体が様々な形でまちづくりに取り組んでおり、こうした団体等との連携・協力をさらに進め、それぞれの団体が自治協のパートナーとして地域の将来像を共有し、三輪地区の活性化のためにも取り組む体制を強化します。

4 計画の推進と評価・見直し

本計画の策定後、住民等の皆さんに計画が十分理解されているか、施策が計画通り実施されているか、実施効果はどうか、あるいはどのような問題点が出ているのか等をチェックし、必要に応じて適宜計画の見直しをしていくことは、計画の実効性を確保し、

実りある計画にするために極めて大切なことです。

また、情報分野の発展や AI 技術の進化により、取り巻く社会的環境が刻々と変化し続ける中で、本計画が住民ニーズに合ったものになっているか常に留意していかなければなりません。

そのため、関係者で組織する「計画推進委員会」を設置し、計画の推進と評価・見直しを徹底して行って、目標の実現に努めます。



キッズふれあい体験



夏休み子ども学校



未来トーク



スマイルボウリング大会



オレンジカフェひまわり

将来像

基本目標

子どもから高齢者まで誰もが、
支え合い、助け合い、つながりながら、
いきいきと安心して暮らせる町

【基本目標1】

支え合い、助け合い、つながっている「福祉の町三輪」

【基本目標2】

未来を担う子どもたちの夢を育む「文教地区三輪」

重点方針

施策

(1) 三輪地区としての一体感を持つまちづくり

- ・住民福祉大会
- ・ふれあいコンサート
- ・ひまわり広場
- ・**匳** てくてく三輪まち歩き

(2) とともに支え合い、誰もが健康で自分らしく生きがいを持っていきいきと暮らせるまちづくり

- ・いきいき講座
- ・料理講習会
- ・地域サロン支援
- ・はつらつ体操クラブ支援
- ・きぼうの旅
- ・男塾
- ・ボランティアセンター
- ・オレンジカフェひまわり
- ・民生児童委員との協働
- ・地域たすけあい事業

(3) 誰もが安心して快適な環境で暮らせるまちづくり

- ・自主防災組織連絡会
- ・避難行動要支援者対策
- ・三輪地区自主防災訓練
- ・防犯活動
- ・交通安全推進事業
- ・ごみゼロ運動
- ・害虫防除対策
- ・地球温暖化対策
- ・空き家対策
- ・**匳** 緑と花の町推進事業

(4) 未来に向けての夢を育み、活力を引き出して、元気に暮らせるまちづくり

- ・まちづくりのつどい
- ・親善スポーツ大会
- ・キッズふれあい体験
- ・青少年健全育成活動
- ・子どもと親の育ち合いサロン
- ・人権教育・男女共同参画研修
- ・**匳** 夏休み！三輪こども学校
- ・**匳** 大人の学び「三輪講座」

(5) 住民の意見やニーズが反映されるまちづくり

- ・自治協だよりの発行
- ・**匳** ホームページ、SNS等による情報発信
- ・地域福祉懇談会
- ・行政との懇談会

(6) 将来像を共有し、力を合わせて取り組むまちづくり

- ・人材の確保と育成
- ・関係団体等との連携・協力

第4章 事業の展開

1 活動計画の内容

目指すべき三輪地区の将来像及び将来像を実現するための基本目標、重点方針を踏まえ、この計画の期間中における活動計画を次のように定めます。

- 将来像を実現するためには、総合的なまちづくりという観点での取組みが欠かせないものであることから、自治協として取り組むまちづくりの計画として位置付け、自治協の事業計画に反映させて取り組みます。
- 活動計画は、第二次計画を基本に、その評価・検証や今後の環境変化等を踏まえ、より充実し、発展した内容となることを目指して計画します。
- 具体的な事業の実施内容は、次のとおりです。

(1) 三輪地区としての一体感を持てるまちづくり

活動事業名	事業の概要	主管部会 (関連部会)
住民福祉大会	住民と各種関係機関等が一堂に会し、地域福祉に関する様々な問題について協議するとともに、福祉活動功労者の表彰を行うことにより、住民の福祉に対する意識の向上と支え合いの共通の意識づくりを図る	健康福祉
ふれあいコンサート	三輪地区にゆかりのある団体（園児から大人まで）のバラエティー豊かな音楽会を楽しみ、ふれあい、一体感を強める	区民広場
ひまわり広場	自治協のお祭りとして、バザー、演芸発表、野菜等の出店、キッズ広場等を開催する。地域の学校、商店会等にも協力していただき、楽しみながら交流ができる場を設定する	区民広場 (全部会)
てくてく三輪まち歩き	ガイドマップを持参しながら、三輪の名所・旧跡や隠れた見どころなどを散策する「まち歩き」を実施し、三輪の魅力に触れるとともに、三輪への愛着、まちづくりへの意識の高揚を図る	教育文化 (全部会)



ふれあいコンサート



ひまわり広場 (バザー)

(2) とともに支え合い、誰もが健康で、自分らしく生きがいを持っていきいきと暮らせるまちづくり

活動事業名	事業の概要	主管部会 (関連部会)
いきいき講座	健康寿命の延伸を目指して、専門講師による正しい運動法で地域の仲間と一緒に継続して活動することへの支援を行うほか、健康講座、音楽講座等生活に潤いを与え心身を豊かにする講座を開催する	健康福祉
料理講習会	季節の献立や郷土食、生活習慣病予防食等調理実習を通して健康づくりの基礎となる食生活の正しい知識を身につける	健康福祉
地域サロン支援 (お茶のみサロン)	住民同士が日常的なつながりを持つため、誰もが気軽に集える「ふれあいの場づくり」の推進を支援する。住民の交流の場、情報交換の場、安否確認の場としても活用する	健康福祉
自主介護予防 はつらつ体操 クラブ支援 (はつらつクラブ)	健康寿命の延伸を目指して、住民同士でストレッチや筋力体操などの健康づくりや仲間づくりを行う「はつらつクラブ」を支援する	健康福祉
きぼうの旅	日頃外出する機会の少ない障がい者を対象に、仲間同士の交流や親睦等の機会を提供し、ふれあいや生きがい等の増進を図る	健康福祉
男塾	男性を対象に様々な講座を行い、シニアの男性が地域の活動に関心を持ち、社会参加するきっかけづくりや仲間づくりを図る	健康福祉
ボランティア センター	地域の縁側として住民の交流の場の活動支援やボランティア活動をしている人の活動拠点としての「ボランティアセンター」の運営を行う	健康福祉
オレンジカフェ ひまわり	認知症の人とその家族や地域住民など誰もが気軽に集まり、介護の悩みや不安な気持ちなどを語り合ったり、楽しく交流する場としての「オレンジカフェ」を運営する	健康福祉

<p>民生児童委員 との協働</p>	<p>地域役員と民生児童委員が、役割分担を踏まえつつ連携強化を図り、情報の共有化や活動の協働などで安心感醸成の環境整備を図る</p>	<p>総務（区長） （健康福祉）</p>
<p>地域たすけあい 事業</p>	<p>高齢者等日常生活に困りごとを抱える方を対象に、有償ボランティア（協力会員）による家事援助や医療機関等への送迎を行う</p>	<p>自治協 （社会福祉 協議会）</p>



いきいき講座



料理講習会



男塾



ボランティアセンター



たすけあい (ひまわり号)

(3) 誰もが安心して、快適な環境で暮らせるまちづくり

活動事業名	事業の概要	主管部会 (関連部会)
自主防災組織 連絡会	自主防災組織が、非常災害時に安全確保や安否確認に的確に対応し得るための機能向上を図るため、関係責任者等による情報交換と意識合わせを行う	総務（区長） （安全安心）
避難行動 要支援者対策	災害時における避難行動要支援者に対する避難計画や緊急安心カードの作成など、民生児童委員との協働で支援体制を確立する	総務（区長） （健康福祉） （安全安心）
三輪地区 自主防災訓練	災害時の被害最少化に向け、災害発生を想定した訓練や研修等平時から危機意識の醸成と対応態勢を整えておく	総務（区長） （安全安心）
防犯活動	不審者監視や車両施錠確認等防犯パトロールの実施と、振り込め詐欺被害防止の啓蒙活動など、犯罪防止の環境づくりをする。また、子供安全見守りパトロールにより児童犯罪の防止に努める	安全安心
交通安全推進事業	交通安全施設の設置要望や道路白線引きなど、交通安全の推進と安全意識の高揚を図る	安全安心
ごみゼロ運動	幹線道路のごみ拾いや河川清掃の他、全住民参加のごみゼロ運動を実践して、気持ちの良い環境づくりを推進する	環境美化
害虫防除対策	アメシロやマイマイ蛾等、害虫被害の拡散を防除するための情報提供等、地域を挙げて被害拡大阻止に取り組む	環境美化
地球温暖化対策	地域の一人ひとりが日常生活において環境に配慮した取り組みをすることが地球温暖化対策にもつながることから、一人当たりのごみ排出量の削減等のキャンペーン活動や講演会の開催等を行う	環境美化

<p>空き家対策</p>	<p>当面実態把握に努めるとともに、環境面も含めた様々な課題についての対応策や空き家の有効活用の可能性等について、行政機関とも連携・協力して検討を進める</p>	<p>総務（区長） （環境美化）</p>
<p>緑と花の町 推進事業</p>	<p>「文教地区三輪」としてふさわしい佇まいの醸成を図るため、行政やボランティア等と連携して、三輪地区の主要道路の街路樹の緑化事業や公園等の美化活動を行う</p>	<p>環境美化 （総務（区長））</p>



防災研修



交通安全推進



ごみ集積所点検



まちづくりのつどい



子どもと親の育ち合いサロン

(4) 未来に向けての夢を育み、活力を引き出して、元気に暮らせるまちづくり

活動事業名	事業の概要	主管部会 (関連部会)
まちづくりのつどい	学校及び地域の教育活動を軸にして発表し合い、学社連携による教育力の向上と地域一体となった青少年育成について認識し合う	教育文化
親善スポーツ大会	スマイルボウリング、綱引き等の親善スポーツ大会を実施し、スポーツを通じて住民同士の交流と親睦を図る	教育文化
キッズふれあい体験	自然体験や文化的な活動を通して、生活の知恵など生きる力を身に着けながら大人と子どもの交流を図る	教育文化
青少年健全育成活動	育成会を中心に、スポーツ大会、研修会、巡回指導などを実施し、青少年の心身の向上と環境浄化など健全育成を図る	教育文化
子どもと親の育ち合いサロン	子育て中の親と子が気軽に集える場をつくり、交流と情報交換を通じ、安心して子育て出来るネットワーク構築や心配事緩和の環境づくりをする。また、身近な地域での利用もできるよう、地域公民館等での実施も推進する	健康福祉
人権教育・男女共同参画研修	差別や偏見の排除、性別による固定的観念の払拭など、互いに認め合い、支え合いの出来る、安心して明るい社会の構築に向けた研修や啓発活動を推進する	教育文化
夏休み！三輪こども学校	子どもたちの夏休み期間中の主体的な学びを地域で支えるため、三輪地区の様々な人材や資源を活用して、学びや体験など多彩なプログラムを展開する「夏休み！三輪こども学校」を実施する	自治協
大人の学び「三輪講座」	長野県立大学と連携し、大人を対象にして、大学の教員や地域の匠等の講師による様々な分野の公開講座を行う「三輪講座」を開設し、地域と学校の連携による元気なまちづくりを推進する	自治協

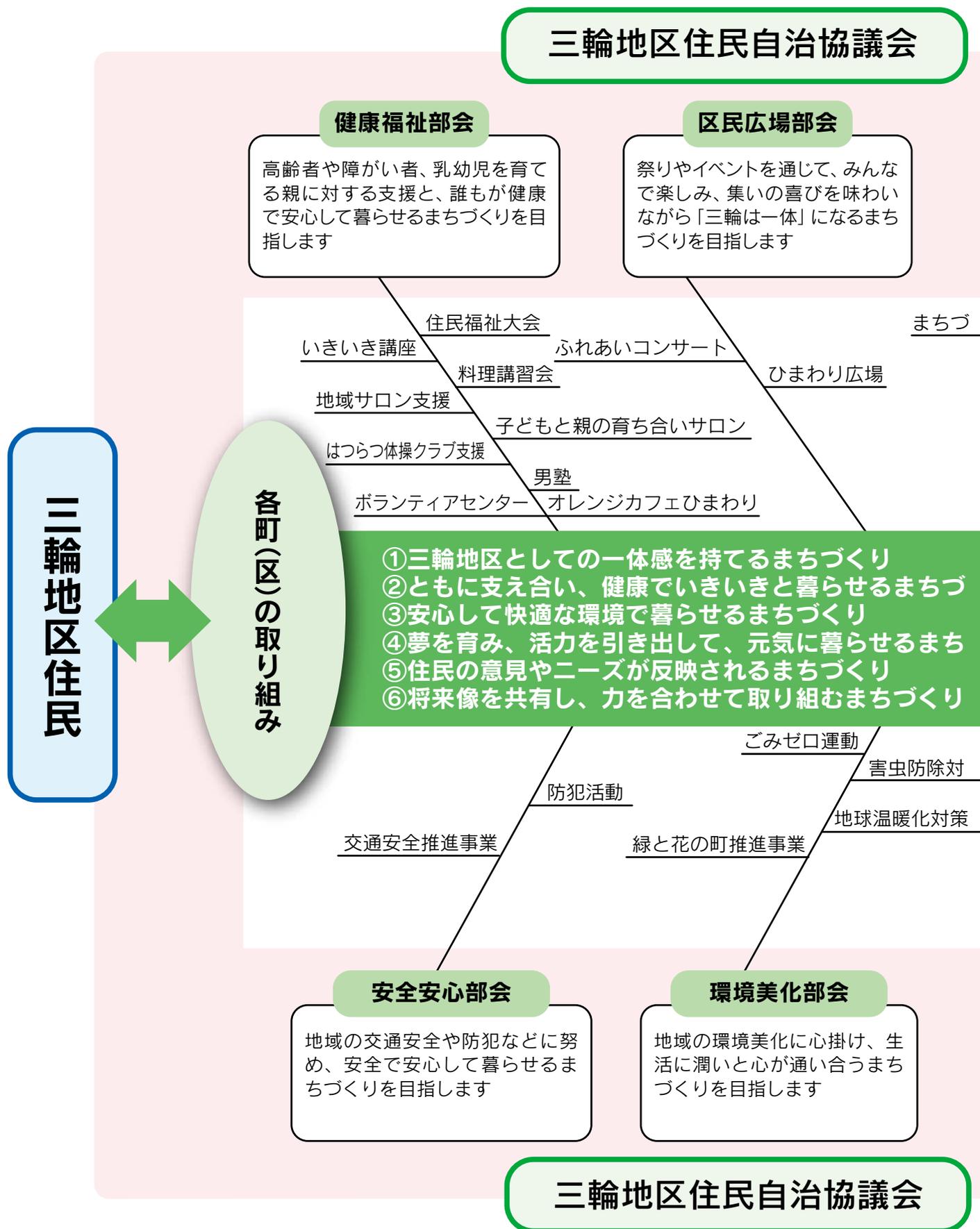
(5) 住民の意見やニーズが反映されるまちづくり

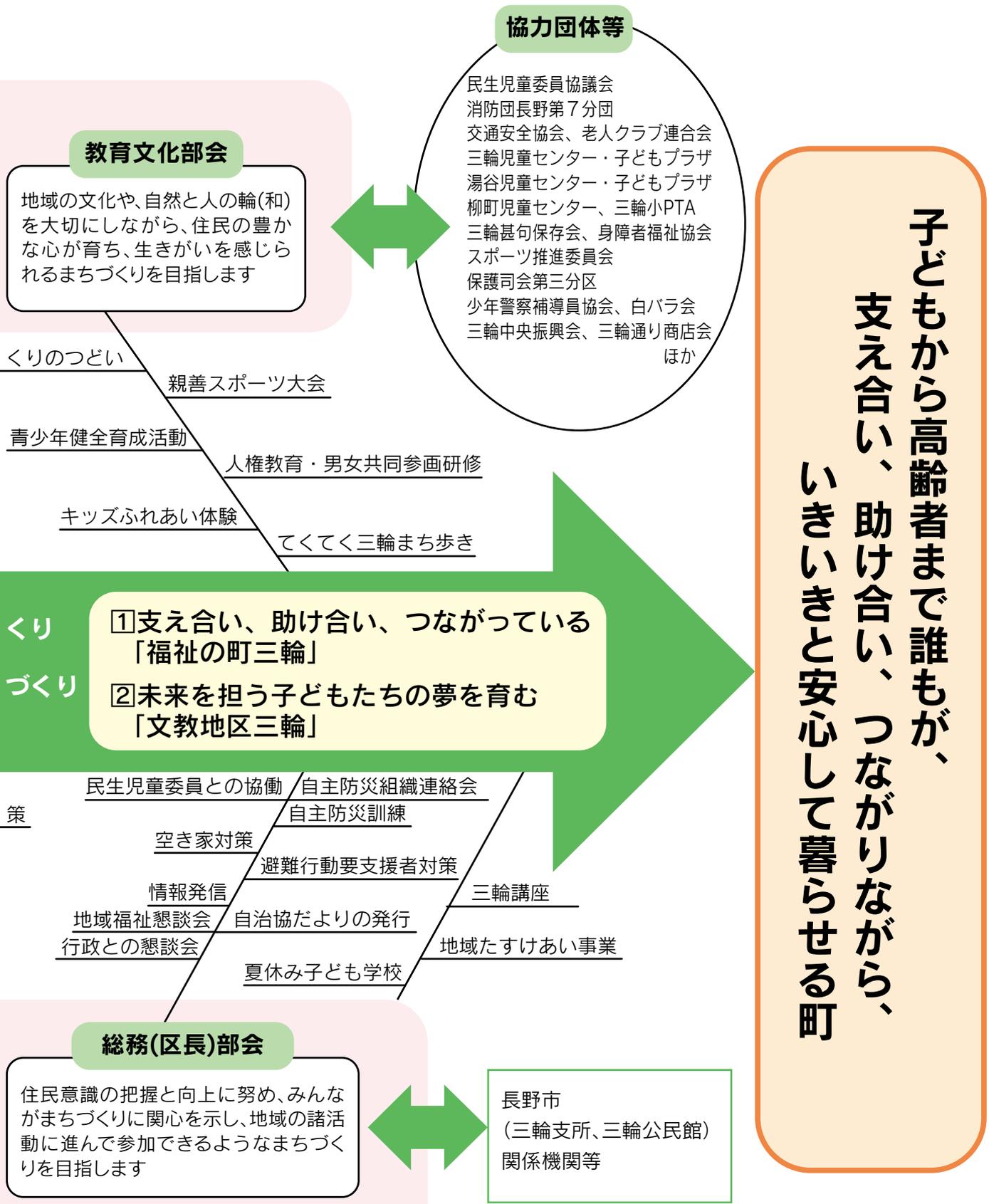
活動事業名	事業の概要	主管部会 (関連部会)
自治協だよりの発行	自治協の動きと方向性などについて住民に周知し、事業の共有化を図るとともに、広報媒体を通じて一体感の醸成を図る	総務（区長）
ホームページ、SNS等による情報発信	ホームページの情報発信力をさらに強化するとともに、SNS等を活用して三輪の魅力の発信や住民同士の情報交流などを進め、住民の地域への関心、参加意識の醸成を図る	総務（区長）
地域福祉懇談会	地域毎に懇談会を実施し、地域における問題点や課題等についての現状認識を共有化して、一体になり問題解決に向けた取り組みをする	総務（区長） （健康福祉）
行政との懇談会	住民と行政責任者が一堂に会し、地域の課題について討議し、課題の共有化と問題解決に向けての認識を合わせる	総務（区長）

(6) 将来像を共有し、力を合わせて取り組むまちづくり

活動事業名	事業の概要	主管部会 (関連部会)
人材の確保と育成	様々な機会やアンテナなどを通じて、意欲ある人材の発掘を行うなどあらゆる努力、工夫を行い、地域活動を担う人材の確保・育成に努める。なお、女性の積極的な登用に努める	全部会
関係団体等との連携・協力	自治協活動に関係する団体等との意思疎通を密にし、連携強化を図って、事業の円滑実施と効果のアップを図る	全部会

2 計画の実施イメージ





【参考資料 1】

第三次三輪地区地域福祉活動計画策定委員会

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	伊倉 文明	三輪地区住民自治協議会会長
副 委 員 長	樋口 恵子	三輪地区住民自治協議会副会長
委 員	矢島 俊一	〃
	和田 俊夫	総務（区長）部会
	宮澤 澄明	健康・福祉部会
	牧野 操	〃
	小林 雄一	安全・安心部会
	今井 久之	環境美化部会
	金井 信幸	教育・文化部会
	金井 和彦	区民広場部会
	北野 順子	ボランティアセンター長
	前田 暎子	民生委員
アドバイザー	横田 武弥	三輪支所長
	松橋 玲子	三輪支所長補佐
	足立 幸子	長野市社会福祉協議会係長
事 務 局	山田 隆	三輪地区住民自治協議会事務局長
	清水美音子	地域福祉ワーカー
	中村 絵美	地域福祉ワーカー
	北澤 歩	地域たすけあい事業コーディネーター

【参考資料 2】

第三次三輪地区地域福祉活動計画策定の経過

□地域福祉活動計画策定委員会、理事会

実施日	会議名等	検討内容
令和元年 6月19日	第1回地域福祉活動計画策定委員会	○策定委員会の設置について ○今後の進め方について ○検討のポイントについて
令和元年 7月26日	第2回地域福祉活動計画策定委員会	○基本データについて ○計画の基本方針、枠組みについて
令和元年 9月17日	第3回地域福祉活動計画策定委員会	○ワークショップ 『みんなで進めるまちづくり～三輪地区の課題、できることを考えましょう～』
令和元年 10月29日	第4回地域福祉活動計画策定委員会	○現状及び課題等について ①第二次地域福祉計画の評価について ②地域福祉懇談会で出された意見等について ○ワークショップの結果について
令和元年 11月26日	第5回地域福祉活動計画策定委員会	○将来像及び基本的方向等について ○取り組むべき事業等について
令和2年 1月28日	第6回地域福祉活動計画策定委員会	○第三次地域福祉活動計画案について
令和2年 2月20日	第7回地域福祉活動計画策定委員会	○第三次地域福祉活動計画案の決定
令和2年 3月24日	第11回理事会	○第三次地域福祉活動計画の承認

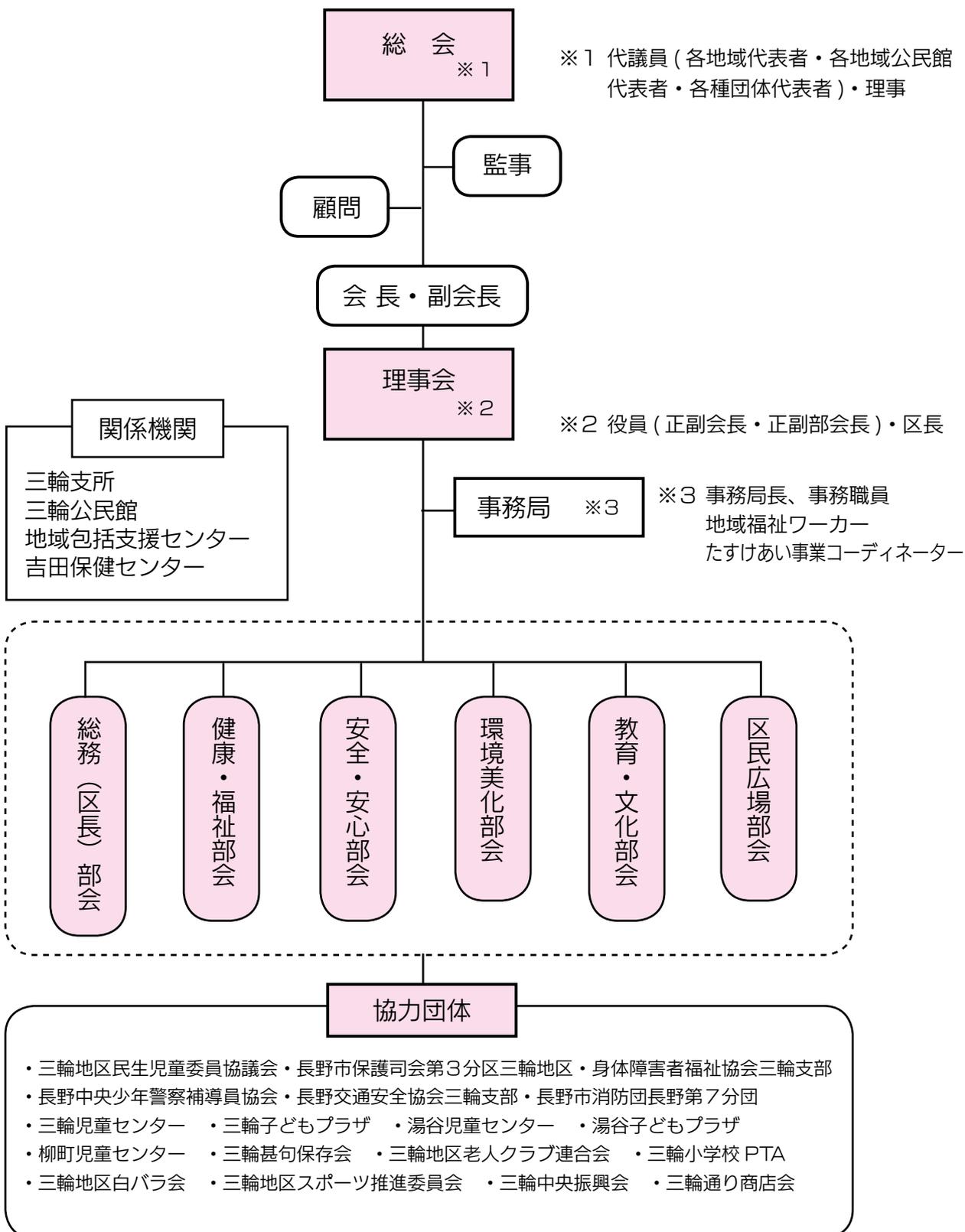
□地域福祉懇談会

- ・令和元年6月～11月にかけて、各区の地域福祉懇談会が開催され、第三次地域福祉活動計画の策定に関して、各区の現状や課題等についてそれぞれ懇談。

【参考資料 3】

三輪地区住民自治協議会組織図

【令和2年4月1日現在】



【参考資料 4】

各区の地域福祉懇談会で出された主な意見

【住民同士のつながり】

- ・支え合うことができる住民同士のつながり作りがこれからは必要となっていく。困った時には「困った」と言える誰かがいるつながりを作っておくことが必要。(横山)
- ・高齢者が元気で町の行事に積極的に参加している、後期高齢者になってからのお付き合いが楽しい、住民が仲良くコミュニケーションも活発に行われているなど人間関係が良好で住みやすい。(相ノ木西)

【隣組】

- ・区の運営、助け合い推進には隣組のまとまりが非常に大切である。下宇木区には150を超える隣組があるが、この中で年に1, 2度集まってお茶会、飲み会などを開いて意思の疎通を図っている組がいくつかある。この会を開くことで、組内の状況が把握でき、特に災害発生時の避難等にも大きな力となる。また、区の情報も共有できるので、区への関心が高まり、結果、役員を受けてもらいやすいことにもなる。隣組が会を開きやすくするために助成を区で考えていきたい。(下宇木)
- ・隣組長の役割を住民に分かってもらえる工夫を。住民とのつながりを持っていれば、防災上もうまくいくのでは。(本郷)
- ・隣組長には、市報等の配布、区費・寄附等の集金だけでなく、住民からの要望・相談に乗れるようにしてほしい。(本郷)
- ・隣組同士のコミュニケーションをとれるようにすべきである。～毎年出される意見で、いろいろな機会を通じて声がけしていくしか方法はないのか？(本郷)

【公民館の開放・利用、居場所づくり】

- ・公民館を開放して気軽に立ち寄れる場としてほしい。例えば、気の合う仲間とお茶の場に、趣味の仲間と勉強の場など。(横山)
- ・公民館活動で、子ども向け夏休み教室(囲碁等)をやったり、夏の暑い盛りに冷房のきいた公民館を開放して高齢者の避難場所にすることも考えられる。(相ノ木東)
- ・公民館を利用し、地域福祉の向上に努めたい。(上宇木)
- ・公民館または社務所(旧公民館)に図書館(室)スペースを用意して誰もが気軽に集まれる場所を確保できないものか。本については、どこの家庭にも寄付いただける古本がある。(下宇木)
- ・居場所作りを進めてほしい。(公民館の開放・拡大、空き家を憩いの場に活用、子どもから高齢者まで世代間交流ができる場など。)(相ノ木西)

【まちづくり】

- ・若い人が住みやすい町になればいい。(相ノ木西)

- ・健康維持のための諸活動が活発である。誰もが参加できるスポーツや体操にもっと多くの方々の参加を促進していきたい。(相ノ木西)
- ・数年後に県立大が本格活動になった時、大学とタイアップしやすい環境を生かして、連携した取り組みをうまくやっていけたらいい。(相ノ木東)
- ・買い物弱者のため、下宇木を含めた三輪地区に、ぐるりん号を走らせてもらえないか。(下宇木)

【防災の取り組み】

- ・防災に関しては、いざという場合「誰が助けに行くのか？」が課題である。関係する組織の連携・協力が必須。また、この際の「情報伝達手段」の整備が必要となる。(相ノ木東)
- ・防災に対する知識強化、対策強化が必要、空き家増、火災対策など。(相ノ木東)
- ・防災の定義に気候変動も考慮した対策が必要。夏の異常高温、集中豪雨など。(相ノ木東)
- ・避難行動要支援者対策として、民生児童委員・健康福祉委員・町役員が各地域単位（各部）で打ち合わせを行い、情報を共有することとした。(本郷)

【役員のなり手不足】

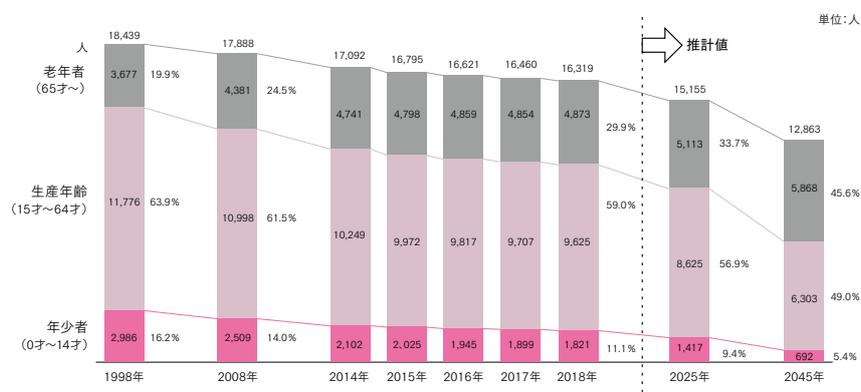
- ・役員のなり手が無いとの課題がある。誰しも負担は受けたくないが、役員をすることは負担ばかりでなく良いこともある（協力し合うことにより良好な人間関係ができて以後の人生を楽しくする、生活に張り合いをもたらす充実した日常になる、ボケ防止になる等）。役員としての活動に楽しさを感じずような体制を作っていくことが肝要。(相ノ木西)
- ・老人会の役員（会長）のなり手が無い。とにかく会長の仕事が多すぎる。特に上部団体へ提出する書類の多さに負担を感じている。老人会だけでなく他の団体でも、高齢のため特に会長の受け手が無いのが悩みである。(下宇木)
- ・老人クラブの会員が減少している。役員のなり手が無い。(返目)
- ・町のいろいろな役員のなり手が少なくなっている。行事への参加も少なく感じる。(本郷)
- ・役員は、仕事をしている人ができる環境であってほしい。(本郷)

【その他】

- ・空き家等が増えて組の人員が減ってきているため、組の再編を望む声がある。(下宇木)
- ・昔存在した青年団的な若い人たちの組織ができないものなのか。最初は少人数でも活動の輪が広がっていけば、町にとって大きな力になるのではないか。(下宇木)
- ・交通安全が重要な課題だ。横断歩道・時間規制などを取り入れたい。また、「長野市防災メール」の活用も有効だ。(返目)

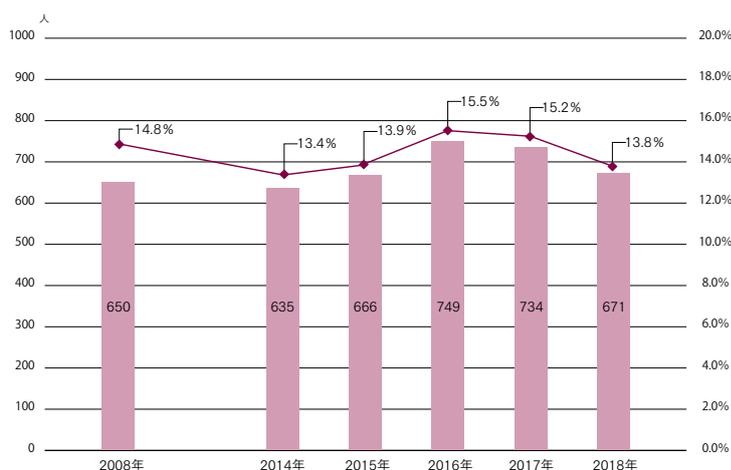
【参考資料 5】

三輪地区 年齢3区分の人口推移及び将来推計

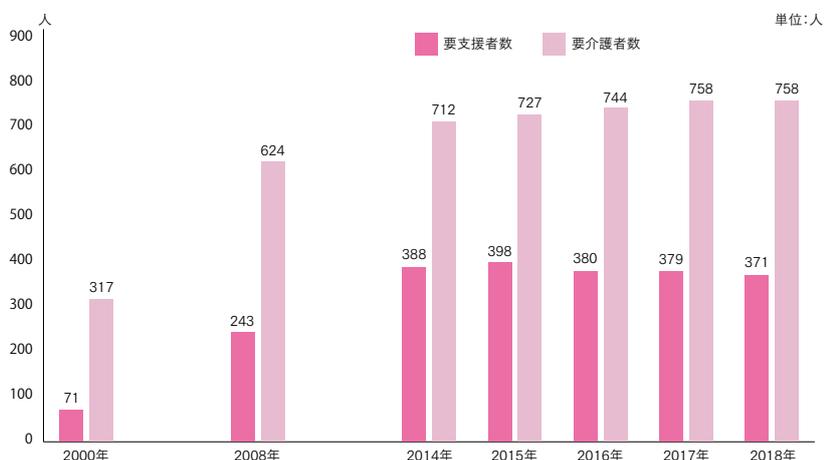


※ 2018年までは、各年10月1日現在
 ※ 2025年及び2045年の数値は、2014年から2018年の年齢3区分の減少率あるいは増加率からそれぞれ単純推計したもの
 ※ 上記は三輪一〜十丁目の人口で、他地区の世帯が含まれているほか、三輪管内には大字三輪の世帯もあるため、各区からの報告数字と合致しない。

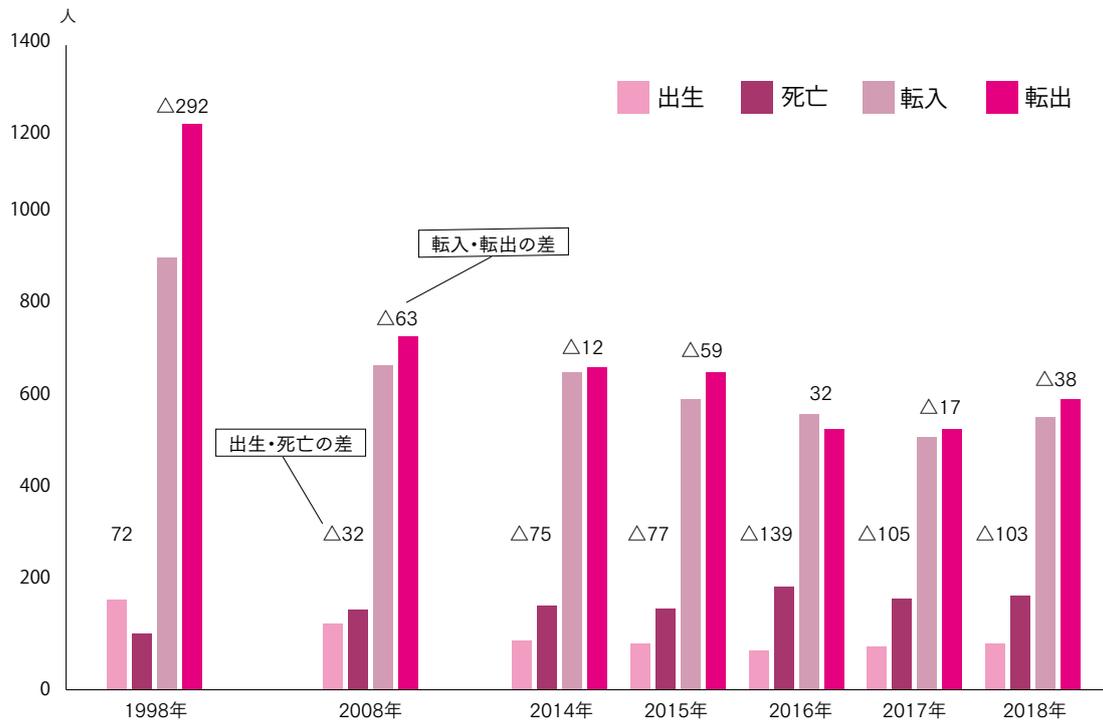
三輪地区 一人暮らし老人の状況



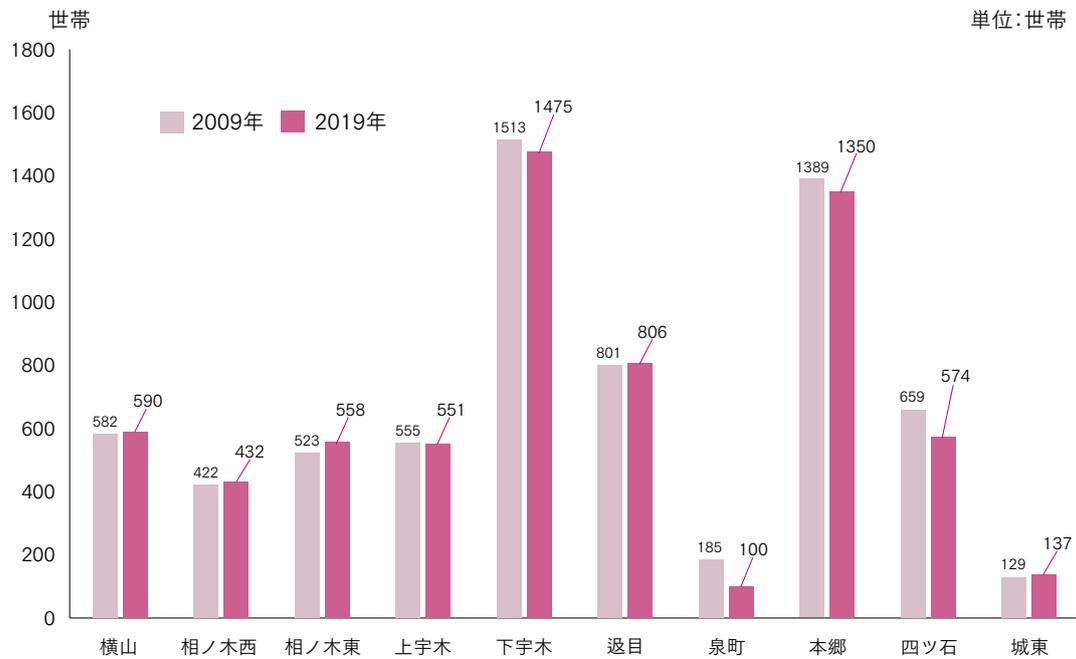
三輪地区 要支援・要介護認定状況



三輪地区 人口動態の状況



三輪 地区別世帯数の状況



つなげよう絆の輪・深めよう絆の輪

Allegretto (♩=112) 元気に

吉本 隆行 作曲



1.~5. みんなの自治一きょう 三輪自治一きょう



1. むこ一うさん一げんりよ一どな一り
 2. まな一ざし一かよ一き一ずなり一の輪
 3. こうま一つたし一き一ひ一とけ一じゃ一ない
 4. うれみ一しを一こ一も一ははる
 5. くみ一を一も一はる



こえがけうれし い くみん のきずなし
 ろうにゃくとなんによ一す
 そ一だつと手き一かな一
 も一つとつなげ



みんなのしあ一わせ ひ一らけゆく



いつまでも いつまでも いっしょに住み一たい



いつまでも いつまでも いっしょに住みたい こ一のまちで

つなげよう絆の輪・ 深めよう絆の輪

地域福祉活動計画特別委員会 作詞

一、みんなの自治協 三輪自治協

向こう三軒両隣

声がけうれしい 区民の絆

※みんなの幸せ ひらけゆく

いつまでも いつまでも

いっしょに住みたい

いつまでも いつまでも この町で

二、みんなの自治協 三輪自治協

眼差し通う 絆の輪

老若男女 睦みてうれし

(以下※五番まで同じ)

三、みんなの自治協 三輪自治協

困ったときは ひとりじゃない

そつと手をかす 区民の絆

四、みんなの自治協 三輪自治協

うれしいことは 分け合って

育つ絆 輝く笑顔

五、みんなの自治協 三輪自治協

区民を守る 絆の輪

もつとつなげば 備え万全

雑感（あとがきにかえて）

第三次となるこの地域福祉活動計画は、令和元年6月に自治協をはじめとする関係者で組織された策定委員会での7回にわたる検討を経て策定されました。

また、策定に当たっては、各区の地域福祉懇談会や地域住民の方も参加されたワークショップなどで出された様々なご意見も極力反映されるように努めました。

この間の策定委員をはじめ関係の皆様の大変なご苦労・ご協力に改めて感謝いたします。

本計画は、平成から令和へという時代の転換点を迎え、三輪自治協にとっても発足10周年の節目を経て新しいステージへの第一歩を踏み出すという、いわばこれからの時代の大きな変化を予兆させる状況の中で策定されました。

本計画のキーワードは『つながる』です。計画では今後見込まれる様々な環境変化も強く意識して策定しましたが、しかしその中にもあっても第一次計画以来一貫して変わらない計画の基本的精神が、この『つながる』です。

それは例えば私たちの日常における当たり前の生活の在り様として、向こう三軒両隣の隣近所の付き合いであったり、あるいは子どもから高齢者までの世代を超えた様々な交流であったり、あるいはSNSを通じたコミュニケーションや情報共有であったりするかもしれません。

いずれにせよ、誰もが自分らしくいきいきと暮らせるためには、人と人とが様々な形でつながり、支え合い、助け合っていくことが何よりも重要ではないでしょうか。

しかし今、新型コロナウイルスの感染拡大という不安に満ちた状況の中で、「社会的距離」であるとか「外出の自粛」であるとか、皮肉にも一見「つながらない」ことが一種の社会的要請として求められているかのごとき様相に、感染防止のためにはやむを得ないことと理解しつつも、多少のとまどいを感じざるを得ません。

でも、こういう状況だからこそ逆に人とつながりたい、ふれあいたい、話したいという思いが私たちにとって何よりも切実なもの、大切なものとして今まで以上に強く再認識されるのも事実です。

そういう意味で、まさに『つながる』ことの真価が問われるこれからの「コロナの時代」、みんなが知恵を出し合い、工夫を凝らして、それぞれの『つながり』を大切にしていきたいものです。

そのうえで、この三輪という地に暮らす私たちが、ぜひ“自分たちのまちは自分たちでつくる”という強い気概をもって、いろいろな課題に正面から向き合い、もっともっと素晴らしい三輪になるために、みんなで力を合わせて果敢に挑戦していけたらと思っています。

(令和2年4月 T.Y)

【ヘレン・ケラー】

世界で最も素晴らしく、最も美しいものは、目で見たり手で触れたりすることはできません。

それは、心で感じなければならぬのです。

ひとつの幸せのドアが閉じるとき、もうひとつのドアが開く。

しかし、よく私たちは閉じたドアばかりに目を奪われ、開いたドアに気付かない。

表紙： 絵手紙 神戸 静男 さん（相ノ木東）

裏表紙： 上段 「本屋さんでの実習」
シンディ・ナターシャ・ハンダヤニ さん
（長野ろう学校 中学部3年）

下段 「ラベル貼り」
小倉 連 さん（長野ろう学校 中学部3年）



【三輪地区住民自治協議会】

住所：長野市三輪4-15-1

電話：(225) 9567 FAX：(225) 9647

地域たすけあい事業専用電話 (232) 2225

ホームページ：<https://www.miwajichikyo.com/>

【長野市三輪支所】

住所：長野市三輪4-15-4

電話：(232) 2220 FAX：(233) 3559)

【長野市立三輪公民館】

住所：長野市三輪4-15-1

電話：(234) 4430 FAX：(234) 4495